

令和二年度 奈良県知事賞

「消費税のゆくえ」

奈良県立奈良北高等学校 一年 川上 紗和

こんな世の中になるなんて、誰が想像しただろうか。高校に入学して四ヶ月になる。

「初めまして、よろしくお願いします。」

と自己紹介をして直ぐに、新型コロナウイルスの影響で学校に行けなくなってしまった。しばらくは家庭学習が続き、不安な毎日が続いた。そして分散登校になり、やっとクラス全員での授業ができるようになった。当たり前だが全員マスク姿なので、クラスメイトの名前と顔が一致しない。マスクを付けない生活に戻れる日を、これほど願うなんて思ってもみなかった。二学期に楽しみにしていた、初めての文化祭と体育祭も中止が決まり、残念でたまらない。そうしている間に、早々と一学期が過ぎてしまった。

家庭学習をしている間、私は夕方のニュース番組を毎日観るようになった。ある日、消費税を減税して欲しいという国民の意見が取り上げられていた。職を失ってしまった人や、出勤日数が減りお給料が下がったと言う人。家族が昼間もいるので、食費がかかるとの声も上がっていた。家庭環境が様々で、どの家庭も大変だろう。今までの国民の生活が一変したのだから、このような意見が出るのも仕方がないことかもしれない。しかし安倍総理はこう回答されていた。消費税は、急速に高齢化が進む我が国にあって、若者からお年寄りまで全ての世代が安心できる社会保障を構築するためにどうしても必要な財源と考えていると。

昨年十月に消費税が十パーセントに増税された。この背景には少子高齢化が関係しているだろう。今のままの税金制度では、私たちの生活を守っていくことが困難ではないだろうか。その消費税は、景気の変化に左右されにくく安定していることもあり、社会保障費として賄われている。私が唯一払っている税金でもある。社会保障は国の一般会計歳出の約三分の一を占める大きな支出項目で、医療年金、介護や子育てなどの分野に充てられている。

私が幼い頃、よく病院に通っていた。子ども医療費が高校卒業まで無料だから、母はいつも助かると言っている。もしも医療費の補助がなければ、病気や怪我の度に高額な医療費を請求される。そうなると思えば病院に行きたくても行けない人が出てくるだろう。税を知れば知るほど簡単に減税して欲しいと言えなくなる。

これからの日本の社会は、更に少子高齢化が進むと言われている。今まで以上に、国民がお互いに支え合っていくことが必要になる。税の使い道をわかりやすく、そして税の集め方をより一層考えていく必要があると思う。税金は私たちが豊かな生活をしていくためには、なくてはならないものだ。赤ちゃんからお年寄りまで不安なく、どの世代でも安心して暮らせる日本の社会であって欲しい。